

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第358回

ニール・アームストロング

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年5月29日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

Shoot for the stars but if you happen to miss shoot for the moon instead.

星を狙う（高望みをする）のだ。月を狙うこと（思い切り高望みをする）に失敗してしまった場合にはね。

ニール・オールデン・アームストロングは、アメリカ合衆国の海軍飛行士、テスト・パイロット、宇宙飛行士、大学教授。人類で初めて月面に降り立った人物である。大統領自由勲章、議会宇宙名誉勲章、議会名誉黄金勲章受章。

Column

私が携わってきたスポーツの世界でも、選手当時に“優勝を狙っていなきゃベスト8にだってなれないよ！”と先輩によく励まされました。確かにそうだと思います。逆に“目標はベスト8だったのですが、なんと優勝できてしまいました！ビックリです！”なんて話は聞いたことがありません。高望みをするという言い方は、日本人の文化的に考えると少々受け入れにくい部分があるのかもしれませんが、『自己ベストに限りなく近づける努力をしよう！自己ベスト更新に失敗した場合にはね！』という言い方を少し変えて表現すればいいだけです。せっかく挑戦する機会が目の前にあるのに“ほどほどで”は取り組む意義が半減してしまう気がします。

現在、高校生であるみなさんは毎日が挑戦と言っても過言ではないほど多くのチャンスに溢れた世代だと思います。なぜなら、まだまだ“知らない”ことがたくさんあるからです。知らないことは絶対にネガティブに捉える必要はありません。“怖いもの知らず”という言葉があるように、怖さを知らないからこそ思い切りチャレンジできるということもあります。まずはチャレンジして怖さを知ったあとは立ち直る方法も知ることになります。それは次のチャレンジに対する勇気になります。武器（知識・経験）を持っていたとしても戦う前には必ず不安があります。そうであれば“転んでもまた立ち上がればいい！”と、武器がなくても思い切って立ち向かうこともできます。それを完全に自分に言い聞かせることで100%の力でチャレンジができて初めて自己ベスト更新のチャンスも生まれるのではないのでしょうか。欲張ることは悪いことではありません！みなさんにとっての“自己ベスト”は、みなさん自身ですらまだ見たことがなく、必ず見届けるべき領域なのです！